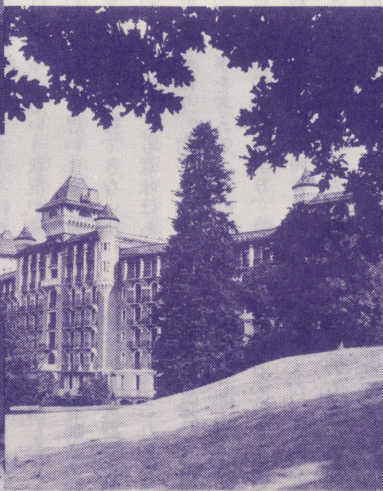


「明日の世界を担う1人1人の役割」

……'83コー世界大会の報告から



本年度MRA世界大会は、七月九日から八月二十九日までスイスのコーで開催された。「明日の世界を担う一人一人の役割」をメインテーマに、「ヨーロッパの使命」(7/9〜7/18)、「未来の家族」(7/25〜8/2)、「南北アメリカとヨーロッパとの対話」(8/5〜8/12)、「アフリカ会議」(8/15〜8/22)、「産業人会議」(8/23〜8/28)、「グライ・ラマ講演」(8/29)と会議が続き、六十数ヶ国二千数百名の参加があった。

日本からは西田誠哉駐スイス大使、中尾栄一衆議院議員、日産自動車大熊政崇顧問(前副社長)夫妻、同後藤光弥ヨーロッパ駐在員事務所長、東芝労使代表団八名(団長・唐澤丈夫勤労部長)、それに大学生や高校生もまじえて約三十名の参加があった。こうした中で外国語を積極的に話そうとした人、自分の体験から話をした人、相手から学ぶことを心がけた人、自分の長所を素直に表現した人、そして会議を支える奉仕作業に参加した人がより多かったことが、世界と日本との距離を一段と縮めたコーの大会であった。参加者の何名かからコーでの発言と体験を報告して頂いた。



「世界を導く照明燈」

スイス駐在
日本大使 西田誠哉

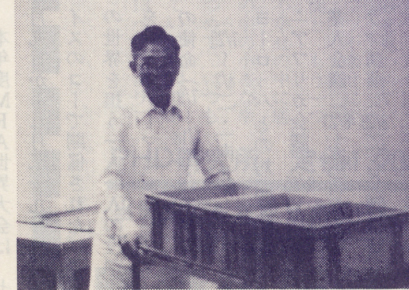
一、M R A協会が人と人との理解を深め、これによって国際平和と実現の為に努力されていることは、私もかねてから承知していましたが、今迄その実態にふれる機会はありませんでした。それが今度M R A本部から御招待を受け、スイスへ着任してから僅か数カ月後に、コーでの産業人会議に参加できたのは幸いでした。

この二つの問題は、私共が今後の国際経済や社会の問題を考えるに当って直面しなければならぬ大きな課題であります。産業人会議の討議を通じて、問題の所在と解決の方向が明らかにされたことは大変有益であつたと思います。

とくに、非公式な形での意見交換を通じて問題点を洗い出し、対立する見解の調整をはかるといふ行き方は極めて大切なことであり、このような方法によつてこそ相手の立場に対する理解を深め、問題解決の糸口がつかめるというのがこの会議を通じて得た私の実感でした。

三、私は数年前までニューヨークの国際連合で日本政府の代表をつとめ、主として経済開発問題を担当してきました。国連は議論ばかりで実効性がないとの批判がよく聞かれます。その大きな原因は、先進工業国側が経済的困難を理由に援助を出し渋るなど、防壁的な立場をとらざるをえないのに対し、後進国側はいわゆる「新国際経済秩序」の実現に急な余り、先進国側にとつて呑めない条件を次々につぎつけてくる、という状況が続いているからだと思います。数の力をかりて、実行できない決議をいくらか採択しても意味はありません。やはり、相手の立場に立つて物事を考えるということが社会生活の基礎であり、コーで観た「心のふれ合い (meeting of mind)」があらゆる問題解決の基本であることを改めて痛感しました。

四、今度の会合には日本から相馬雪香女士をはじめ数十名の代表が参加され、日本の立場を説明するほか、各分野で積極的に活動しておられるのを拝見して、大変心強く思いました。M R A日本協会の方々は戦後いち早く、世界のM R Aの友人を通じて日本に対する誤解をとき、国際的



●食事のサービスや片付けでも活躍された 西田大使

理解を通じて世界平和実現の為に努力して来られたと聞いていましたが、まさにコーにおいてその御努力の一端にふれた思いがしました。

この会議を通じて、数多くの外国の参加者が日本一般に対し、また日本の産業や社会の在り方に対し多大の関心を持つていることが分りましたが、これは日本を代表する立場にある者として、大変嬉しいことでした。然し一部の参加者の間には日本に対する過大評価や誤解が見られました。これらの過大評価や誤解をとり除いて日本の正しい姿を紹介し、日本に対する理解を深めるのは日本国民すべての努めですが、この点とくにM R A協会の方々の努力に期待したいところで。

五、最後に、産業会議に出席して得た私の個人的な印象を幾つか申しあげます。

まず、会合が非常に家族的な雰囲気であり、すべての参加者は兄弟ないし友人として分けへだてなく接するとの態度は、実に気持がよいと思えました。次に参加者全員に奉仕の気持が強く、食事のサーヴィス、片づけ、文化活動等も大変スムーズに行なわれ、「全員参加」の実態がいたる所で見られました。これはM R A精神に由来するものかも知れません。また、会議の運営、行事の進行等は極めて能率的で、時間通りに進められていましたが、これは「神の見えざる手」がたくみに動いている証拠でしょう。

かつて、ブックマン博士は「日本がアジアの燈台となるよう希望する」と言われたそうですが、今度の会議参加を通じて、私はコーが世界を導く照明燈であることを強く感じました。



「自動車産業の国際化」

日産自動車株式会社

顧問 大熊政宗

今回私は、MRA一九八三年国際会議のうち、八月二十三日から二十八日の間に行なわれた産業会議に、妻と共に出席する機会を得た。八月二十五日午前の本会議で、「我々は如何にして保護主義を乗り越えて世界的協力への道に進むことが出来るか」というテーマでパネルディスカッションが行なわれたが、私もフランスのオリヴィエ・ジスカールデスタン氏（INSEAD副院長、元大統領の弟）、及びカナダのラヴァル大学教授のジェイムズ・スウェイツ氏と共にパネルスピーカーとなつて、次の様なスピーチをした。

「石油危機後の所謂世界小型車戦争に生き残る為、各国の自動車メーカーは経営のあらゆる側面にわたつて革新を強いられ、今日様々な体質改善の努力を行なっている。この過程で各国メーカー間、部品産業間の連携が深まつており、各国自動車産業が相互依存の度合を強めつつある。又一方、先の自動車産業の小型車転換という構造変化にうまく適応出来た日本の自動車産業と、これへの対応の遅れた欧米メーカーとの間の競争力の差が大きくなり、欧米を中心に保護主義の傾向を生じた。自動車産業は各国にとつて重要な戦略産業であるから、外国からの大量の完成車輸入によつて崩壊することは許せない。従つて輸出に当つては相手国市場との調和を保ち、慎重な態度でこれを行なうことが肝要であると共に、米国、欧州等では現地生産にも着手して現地で雇用拡大、地域社会の発展に寄与することが必要である。又国境を

越えた連携、協力関係を続け拡大して行く。

このような自動車産業の国際化の方向こそが、各国自動車産業の共存共栄を可能とする現実的な方法の一つである。又、自動車企業としてその国際化を進めるに当つて、企業内により多くの国際人―単に自己又は自国の利益のみを追及するのではなく、他国の人の利害、様々なもの考え方を理解し、これを取り入れてものを判断し、行動できるような人材を育成することが極めて重要であると思う。私は日本の自動車産業の国際化を着実に進める中で、世界協力の増進に貢献出来るものと思う。」

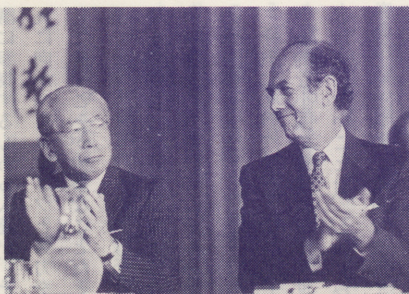
以上の如く、自動車企業が国際化の道を進め、又自動車企業に働く人間の国際化を進めることが、世界的協力への道につながる旨を強調したことは、MRAの精神に照らし共感を得たのではないかと思う。

スピーチ後の質疑並びにその後のグループディスカッションで、色々なことが討議されたが、殆んどが日本にかかわることが多く、如何に日本が世界の中で注目的になつているか、又期待

されているかということを身を以て体験した。その中で、二国間の貿易不均衡是正の問題、及び日本企業の輸出態度を取り上げた質問や論議が出たので、小生より個人的見解として本問題につき日頃考えていることを述べ、適当にコメントしておいた。又日本企業内の教育計画、日米間の問題、日本の農業問題についての質問があり、日本に対する関心の深さを感じた次第である。

又、夕食のテーブルでの懇談も非常に有益であつた。小生はアメリカの黒人牧師でGMの重役をしているレオン・サリバン師（KING師と並び称せられる程の黒人指導者とのこと）、オランダのフィリップ社前会長のフレデリック・フィリップ氏、英国の労・使の代表数名の各々と日を異にして同一テーブルに着いたが、非常に興味深く、有益であつた。

以上がコー国際会議出席の主要であるが、僅かの期間ではあつたが非常に貴重な経験をしたと感謝している。あの様に多数の国々から大勢の有力者が、財界、労働界、教育界、宗教界、



●ヨーロッパ経営大学院のジスカール・デスタン氏（前大統領の弟）と

「通用しない 小国の論理」

東芝EMI常務取締役
——町田芳也——

あらゆる国から、あらゆる階層の人が一堂に会して、平和と正義のためにデイスカッションをする会合は、それ自体有意義なものと思われました。国が違い民族が違うと、こうももの考へ方、感じ方が異なってくるものなのか、ということを実感しただけでも意味がありました。モントルーの街から見上げると、丘の上に立つマウンテン・ハウスの偉容は、建物が19世紀的なものであるだけに非常な安定感があり、このような会合を開催するにふさわしいハウスだと思えます。これまでお互いに全く知らなかった、しかも外国の人達と一緒に料理を作ると、皿を洗い、テーブルを整え、共に語りながら食事を取るなど

という機会は、私どもにとつてめつたに訪れるものではなく、その意味で貴重な体験であつたと申せましょう。

この会議は、もともとキリスト教の牧師さんが、極めて純粹な気持ちと一種の危機意識から出発して始められた、と聞いている集まりだけに、異なった宗教を持つ人、或は全く宗教を持たない人達から見れば、観念的には問題を理解できるようにしても、発想の面で分かりにくい部分もあり、分科会等で活発な意見も出しましたが、それはそれなりに長い間に自然に融合してゆくのではないのでしょうか。

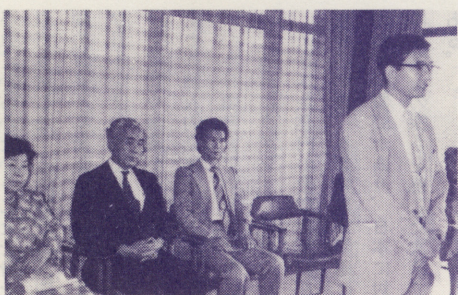
外国の方々の、日本及び日本人に対する関心の強さと期待の大きさには驚かされました。いくら経済大国とはいえ、天然資源の殆んど無い、ある意味では貧しい日本に対し、これ程大きな関心が寄せられるとは思つてもみなかったことでした。これはひとえに日本人の優れた労働力と勤勉さによるものと思ひ、日本人に生まれたことへの誇りのようなものを覚えます。その日本といえども、まだまだ多くの難問を抱え、その一つ一つは

容易に解決できるとは思いませんが、全体として見た場合には比較的うまく運営されていることを感じ、終戦後ここに至るまでの日本人の目に見えない努力の積み重ねが今日を招来したのもと思ひ、お互いに日本人同士のこれまでの忍耐と努力を称讃したい気持ちで一杯でした。



●スイス名物のフォンデュに舌づつみを打つみなさん

それにしても、貿易摩擦や海外援助の問題、更には労使の問題や人種のことなど、日本をめぐる国際問題はなんと数多くあることか、と思ひます。こういう諸問題乗り越えて世界が共同歩調をとれるMRAの理想は、まだまだ遙か遠い先にあると考へざるを得ませんが、MRA会



●コーの報告をされる東芝の皆さん

私は日本人の労働観について話したいと思ひます。それは、その労働観が、日本の安定した労使関係を築いている要素のひとつであり、また、諸外国から長時間労働として非難されていることへのひとつの回答になると思うからです。

「日本人の 労働観」

東芝労働組合
書記長
鈴木勝利

議に参集する心ある人達が、それに向かつてコツコツと努力をしてゆくことが大事なことだと思ひます。そして、このような場を提供して下さるMRA協会の事務局の方達に、心から感謝の念を捧げます。それにつけても、改めて自己中心的な小国の論理はもはや世界に通じないことを、しみじみと感じさせられた貴重な会議でありました。厚くお礼を申し上げます。

日本人として仕事をどう考えているかですが、まず宗教的な見地から分析したいと思います。インド、中国を経て日本に入った仏教は、多くのことを教えていますが、その中に「来世のために現世を生きる」というのがあります。日本では「親の誤ちは子に報いる」と言います。

つまり、今の自分が精いっぱい誠実に生きるということが、来世の自分に報われる、子どもに報われるという考えです。誠実に生きるということは、自分の仕事・労働を、誠実にこなすことが、一番大事なことということですね。

次に、ご承知の方もいると思いますが、日本に「禅」という哲学があります。この「禅」の中にこういう話しがあります。

昔、日本の武士（サムライ）は、命の次に刀を大事にしていました。ですから刀をつくる人は皆から尊敬されていました。その刀をつくる人に「正宗」という人がおり、その弟子に「村正」という人がいました。刀そのものの切れ具合は、弟子の村正の方がよいと言われていたが、ある時その二つを実験す

ることになりました。ゆっくと流れる小川に、刃先を川上にむけて立てます。そして、川上から数枚の木の葉を流すのです。はじめに、弟子の村正の刀を立てました。そして、木の葉が刃先にふれた瞬間、木の葉は見事に二つに切れたのです。

次に師匠の「正宗」の刀を試すことになりました。同じように川上から木の葉を流します。

木の葉がだんだんと刀に近づき、刃先にふれようとした瞬間、その木の葉は刀をよけて流れていってしまったのです。話しはこれで終了です。禅は体験を通じての哲学ですので、この話しでの結論は出ていませんが、私は次のことを教えていると思います。

仕事というのは、ただ物をつくるだけではないのです。物をつくるだけなら、木の葉を切った弟子の村正の方が優秀ということになります。しかし、正宗

の刀を前にして木の葉がよけて通っていったのは、その刀をつかった正宗の人格が、刀にこもっており、その偉大さゆえに、木の葉が刀にふれることが出来なかつたということなのです。

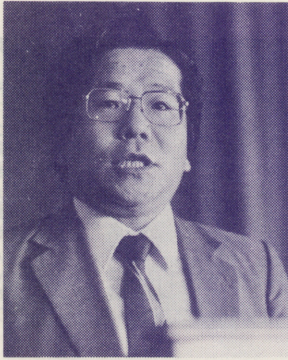
このように、仕事を通じて自

分の人格をみがきあげることが日本人の労働観です。仕事を通じて、自分の人格を築きあげるということは、自分を内面からみつめ、自分を戒め、自分の行動を律することです。その手本は、「我以外皆師」という言葉で表わされています。自分以外の人も、そして物、自分以外のすべてのもので、自分にとって見習うべきものとの考えです。

日本人が、勤勉であるというのは、こうした労働への哲学があるからです。その代表的な話しを一つ申し上げます。

京都の舞子さんたちは、中学を卒業すると修行に入りますが、彼女たちが一番、恥に思っていることは、お客さんの前で汗をかいて、顔の化粧をくずしてしまふことなのです。そのため、彼女たちはどんな暑い時でも汗

●好評を博した鈴木書記長の講演



をかかないように訓練します。どのような方法かは知りませんが、だいたい半年から1年くらいでそれが出来るようになります。私はこれは精神力だと思えますが、わずか十五歳くらいの女の子が、こうした仕事の中で努力していることは、本当にすばらしいことと思います。

仕事を通じての精神力、他の人との協調、周囲の人からの尊敬、そして人格の形成は、まさしくMRAの精神にふさわしいものと思います。この人格の形成によって、労使は人としての対立から、相互に尊敬しあう協調へと向かうのです。これが日本の労使関係を支えている一つの要素だと思います。

また、日本人の中から、自分の内面をみつめ、他の人の長所を認め、見習うという考えは、現在の国際間に起きているいくつかの困難な問題を解決する力となるでしょう。たとえば、私たちがが発する前の日、東芝の三二ある工場の労働組合のひとつが大会を開いて、組合員が出してきたお金のうち、約二五〇万円を出して、東南アジアにあるカンボジア難民キャンプに井

戸をつくることを決めました。これは、同情やあわれみではなく、正しいことを、出来ることから始めようという組合員の意思から決まったものです。井戸ができれば、その決定をした東芝の組合員は自分の子どもたちにむかって、胸をはってこのことを話すことができることと思います。

私は今回このMRA会議に参加し、今まで日本の国内だけで考えていた「我以外皆師」は、国と国との間にも必要だと感じました。自国の欠点を反省し、他の国のよいところを学ぶことの大切さを知りました。まさしく、「我以外皆師」です。最後に労働者の代表として、ひと言つけ加えれば、日本は、水以外に資源のない国といわれています。しかし、私は、もうひとつ立派な資源があると思っています。それは、質の良い労働力です。これが私たちが日本の労働者の誇りなのです。ありがとうございます。

(コーでの講演から抜粋させていただきました。)

を在滞コ て返り振

前埼玉県議会議員

神 たか子

コーで過ごした二週間、それは私にとって久し振りに与えられた、身も心もいやされた日々でありました。コーの素晴らしい景色、いいえそれにも勝る、世界の人々の暖かい心によつてです。

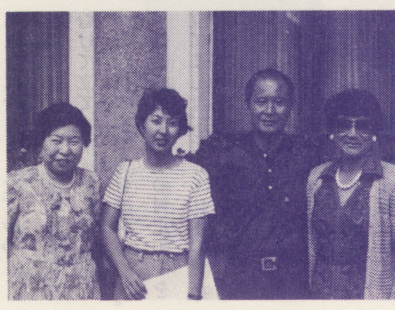
二十八年間の地方議員生活で、知らず知らず失われていた、自分の心を静かに見直す貴重な時間を与えられたことに感謝しながら、世界の人々と心を開いて語り合い学ぶことができました。

一九五七年、アメリカのマキノ島でMRA大会に参加した時、創始者のフランク・ブックマン博士が私に、「自分の国を大切にしない、日本はアジアの灯台になる国です。」と静かにおっしゃられたことを思い出し、改めて二十五年の歳月を振り返り、

その期待に何一つ応えていないことに気がつきました。もちろん、私一人では何もできません。しかし自分から始めないで、他の人に始めて下さいとは言えません。

アジアで飢えに泣く人々、世界の至る処で起こっている戦争、そして日本では国の責任を負う立場の人の汚職、また人の命にかかわる薬品、医療関係者の汚職等々多くの問題が報ぜられております。どんなに人が困っていても自分に関係はない、どんなに悪いことであっても自分の利益になればよい、汚職をして

も恥じない、こんな風潮が続けば、



●左端が神さん、右の二人が北口さん御夫妻

ば、きっと家庭も社会も人々の心も、駄目になってしまおうのではないのでしょうか。

選挙でも、「きれいな事では戦いに勝てない」と誰もが言う様になりました。しかし私はそれに負けてはいけない、悪い事と知っていてもやるのは罪であり、正しい事を世の中の人々に受け入れさせるためにどうしたら良いかを真剣に考えた時、MRAの絶対正直、純潔、無私、愛の四つの標準を生きることの大切さを再認識しました。

悪い事をして勝つよりも、何が正しいかで行動することを知らず、人生にとって一番大切な事であり、そこから日本人として、アジアに向って灯をと

すための第一歩を踏み出すことになるのではないのでしょうか。

私は灯台の火をとますためだけではなく、永遠に灯が消えることなく、アジアを世界を照らすことのできる様にするためにどうしたらよいか、日本人としての責任を果たすために、みなさまと共に真剣に考えたいと思います。コーでお目にかかった多くの方々から教えられたことを大切に心に留めて、一歩一歩

前進したいと思えます。

今年、浦和から、国産工業の北口社長御夫妻と、私の知人の御子息小宮泰二さんと共に四人で大会に参加しました。泰二さんは若い人々とサービングチームで活躍し、世界の良き心の友を得た様子で、御両親が大変喜んでおられ、インドの大会にも



●日本人主催のお茶会で挨拶をされる産業人会議事務局長のハインリッヒ・カラー氏(スイス)

参加して頂ければと願っております。北口御夫妻も私と共にパリ、ロンドンのMRAハウスを尋ね、素晴らしい経験の旅を感じ謝しておられます。

何時も暖かく私達を迎えて下さるMRAチームの皆様には心からの御礼を申し上げ、ペンを置きます。



●数百人分の食事作りをする料理班の人々。
食事作りもサービスも参加者の手によつてなされる。



”MRA世界大会 に出席して”

瑞龍寺 権大僧正

小笠原日英

今回、国際MRA日本協会の相馬副会長から、八月にスイスで国際会議があるので参加しないかという電話を戴いた。現代の世相は宗教が絶対に必要なことを常に信じて、事あるごとに語っている私なので、世界各国の人達が集まる場で各国の方々と話し合うことは素晴らしいと思ひ、心はずくに「参加致します」とお返事するところなのだ。これには幾つかの難題があった。外出となると車イスの私。英語もフランス語も出来て私の車イスを押ししてくれる男性があ

るかどうか、日本を留守にする間のスケジュールをコントロール出来るか、お金が間に合うか、私の身体ではスイスは遠すぎる。と皆が反対しないか等々である。そこでいつものように、この問題が解決するならば佛さまが行つて来なさいと言われること、もし一つでも解決できなくて行けない場合は佛さまが行かない方が好いと言われること、と心に決めていた。やがて有難いことに全部問題は一掃されたので、行くことにした。

ジュネーブで一晩泊まったホテルへ、車でMRAの藤田さんが迎えに来て下さって、一時間余りでコーのマウンテンハウスの会場に到着した。今回の国際産業人会議の最後の全体会議と閉会式に間に合った。そして、翌日にはグライ・ラマの講演とティータイムには私を含めた各国の質問者の応対とが予定されていた。

とにかくどっちを見ても外人だらけで、それも白人、黒人、東南アジア人と人種の見本みたいな方達のだが、さすがにMRAの集まりで、とにかく「外人国」という差別がいつのまに

か消えてしまった。同じ人間、それも心の通じた仲間という親近感で、私も英法尼も同感で実に楽しい雰囲気になってしまふ。インドのラジモハン・ガンジー（ガンジー翁の孫）さんとは、一緒に食事をしながらすっかり友人になった。昼夜とも食事の時にはゲストが必ず二人加わって、さまざまな会話が楽しく交わされた。とにかく片っ端から同時通訳を下さるのだから大変助かった。

—グライ・ラマ—

29日、グライ・ラマが会場に到着された。私事で申し訳ないが、私はグライ・ラマに遠い昔の若い頃から憧れていたのだから、まさかスイスで間近に逢い

まみえられるとは、全くMRAの奉仕の皆様へ感謝の言葉もない次第である。

大会場で講演される前に、休憩室に、スイスに亡命されているルーマニアの国王と女王、王女が入られ、相馬さんと私と英法が続く。用意して下さった白いマフラーをグライ・ラマに奉

じると、「これはチベットの習慣だから」と優しく言われ、受けられて御自分の肩に掛けてから、改めて私の首に祝福をして掛けて下さる。私の好い加減な英語ではいけないからと、前夜から練習しておいたご挨拶の言葉を言い始めたが、あまりの感激に涙があふれて泣くまいと必死の私を、グライ・ラマは優しく両手で手を取り、肩を抱いて下さった。正面にグライ・ラマと私が座ってから、各国の代表約三十名が、一人一人挨拶や質問をした。テレビカメラが回り、新聞社の人が撮影していたが、静かに音もさせず動く様子は、日本の報道人とは大違いのマナーである。

大会場でのグライ・ラマの講演は、又、私には全くの驚きであった。ラマ教だと思っていた

のが私と同じ大乘仏教で、話される内容が、いつも私が語ることとその表現まで同じだったのである。これには英法尼も驚いて、後に何回も語っていた。最後に、我が日本の代表相馬雪香さんが挨拶をされて大会をしめ派なスピーチであった。



一人でも多くの日本人がこのような集まりに参加されることを願うと共に、今回の大会のMRAで奉仕されている方々、殊に相馬さんに心から感謝しながら無事帰国したことである。

「わが敵をわが友と 変え得るために」

ドライ・ラマ

の講演から

八月二十九日、チベットの法王ドライ・ラマが「わが敵をわが友と変えうるために」というテーマで講演をされた。

ドライ・ラマは、祖国チベットが中国の支配下に落ちた後、一九五九年以来インドで亡命生活を送られている。丁度同じ頃スイスで開かれていた国連パレスチナ会議の影響もあって、ものものしい警備陣に取り囲まれておられたにもかかわらず、ドライ・ラマは終始笑顔とユーモアを絶やさず、マウンテンハウスを去られた後は、「田舎の好爺爺のようで親しみやすかった」「御自分の体験に裏打ちされたお言葉だけに、心に残った。」という声が、ほうぼうで聞かれた。以下は講演からの抜粋である。

◇人間は外見こそ違えど 内側は同じ…

みんなこの小さな地球に住む兄弟姉妹であり、人類という家族の一員です。皆が幸せになりたいと願い、実際そうであるべきです。

◇宗教について…

みんな、「幸福を追求するが故に、さまざまな宗教、主義、思想を創り出し、それに従います」「優れた教」とは、それを信じる人々の日々の実践と結びついてこそ、初めて意味を為すのです。宗教に違いはあれど、「よい人間、心の暖かい人間を育てる」という目的は同じなのですし、互いの異なる考えや経験から学べることは多いものです。

◇世界平和…

私達一人一人の心の中では、善（愛・哀れみ・許し・寛容さ）と、悪（怒り・憎しみ）との戦いが絶えず行われています。大切なのは、他の人々の欠点を指摘する前に自分の悪の割合を減らし、「自分自身を変えること」です。世界平和という大きな目

的のためには、私達一人一人の決心が、努力が、そして勇気が必要とされています。果たすべき役割と責任というものを、私達全員が担うべきなのです。

◇敵が教えるもの…

世界平和とは、私達に「心の平安」があつてこそ、初めて可能となるものです。「心の平安」を破るものは、「怒り」や「憎しみ」という感情であり、これこそ私達の「真の敵」といえましよう。ひとたびこれに支配されると、他の人々にも悪影響を与えがちです。これをねじ伏せ得るのは、「寛容さ」、「許しの心」そして「忍耐」です。これらを

会得することは、人生に不可欠な修行です。しかもこれらは、いい友人達からではなく、あなた方が敵とする人々からこそ学び得るものです。こうしてみれば、敵の存在にむしろ感謝する心すら起こってくるでしょう。

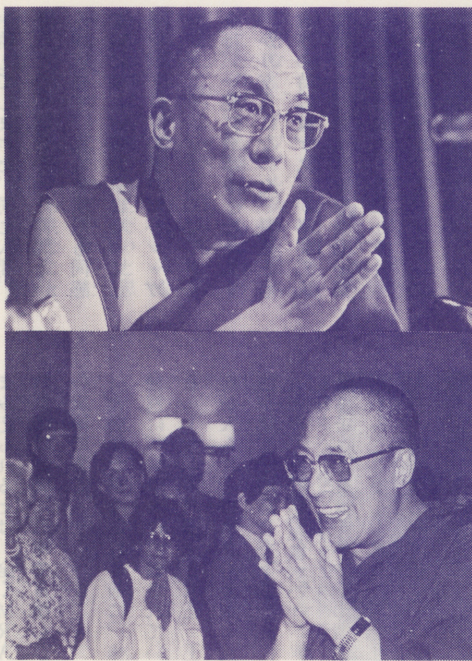
◇東西に分割された 社会…

考え方も主義も違う超大国が、今ことごとく争っています。この二つの国の間には、人間的な接触や理解が欠けています。相手方もやはり幸福を追求する人間で、双方ともにこの小さな地球で生きていかなければならぬということに気づかなければ

なりません。みんなが力を尽くして両国を話し合わせ、その距離を狭め、人間によって築かれた障壁を取り除くための努力をしましょう。ひとたび「相手も感情を持った人間なのだ」ということに気づけば、緊張もほぐれ、疑惑も消え、信頼も芽ばえ出し、自ら軍縮の話もできるような基盤もできましょう。

◇南北問題…

深刻な貧富の差をいかに縮めるかを考える時、長い目で見れば、「教育」こそが必要だと言わざるを得ません。単に学ぶだけでなく、人類が一つになるべきことを知り、「愛」と「哀れみの心」とを育てることが教えられねばなりません。教育を通して、「頭脳」のみならず「善い心、暖かい心」を育むことが、今求められています。と同時に、「真剣にまわりの人々のことを考え、協力し合うことができる」よう教育していくことが必要です。お金は確かに必要ですが、これは人間に仕えるためにあるものです。物質よりも、まず「ひと」を第一に考えることが大切なのです。



今年のコー世界大会より



●アフリカ22ヶ国より170人が参加したアフリカ会議



●国際急行の中の出来事を通じて、一つの運命共同体としてのヨーロッパを象徴的に描いたドイツ語劇「列車」



●別れを惜しむ人々
（最前列の2人は神奈川からの高校生）



●食事の場を通じての国際交流と相互理解をはかる



●フィリピン元外相マンングラバス氏(右)と談笑する
西田大使

新たに五千人の会員 獲得を目指して……

本年度総会開催さる

九月十七日、東京永田町の憲政会館において、本年度MRA世界大会出席者の報告会を兼ねて、国際MRA日本協会昭和五十八年度の総会が開催された。高瀬正二会長の挨拶に続いて、昭和五十七年度事業報告、会計報告、監査報告及び昭和五十八年度の事業計画が提出され、それぞれ承認された。また社団法人化を目指した新会員獲得キャンペーンが多くの成果をあげ、既に千五百名を越えたことが報告され、柳沢理事長からも次の目標（五千名）に向かい努力しよう、との呼びかけがあった。

第一部の世界大会報告会では、先ず冒頭で浦和の小宮泰二君（丸便運送）が、「サッカーを通じて仲良くなったウルグアイの青年が、カタコトの英語しかできない自分にスペイン語で十五分もかけて住所を伝え、是非手紙を欲しいと別れ際に言ってくれた」という話を紹介し、人種や宗教を越えても親しい友人になり得ることの体験を披露した。

東芝の宮川靖彦さん（第一国際事業部）は、「家庭でうまくいかないことがある理由は何故か」ということを模索していたが、コーでは敵対している国同士の人々が腹を割って話しているのを目の当たりにして、心を開いて話し合いをするのが問題解決の鍵だとわかった。」と述べた。

東芝EMIの長堀清さん（労組副委員長）は、名刺を使わない外国の人が名前と顔を覚えるよう努力している様や、普段日本では実感のない「人種の違い」ということの意味が理解できた体験を報告した。また唐澤丈夫勤労部長の、「自国の行動が他国に及ぼす影響を考えない」「小国の論理」はもはや通用しない」というコーでの発言が、参加者に大きな感銘を与えたことも紹介された。



● サッカーを通じての深い友情について語る小宮泰二さん



● 遠方よりはるばる参加して下さった九州MRA協力会の皆さん

高橋千恵さん（事務局）は、「我が身を振り返り自分を見直すことができる」コーで、「お皿の上ののって人から与えられる責任ではなく、自分の決意で勇気をもってとりくむ責任」というものを学んだことから、また柴田節子さん（教師）は、「同室の人を自分の家族と違って接することから、それぞれ自由な心で人に尽くすことができた」と述べた。

報告後、加藤シズエさん（元参院議員）が「日々心を掃除し神の意に沿った幸せな生活」を送る「MRA人間」ぶりを語られ、楽しい報告会に味を添えた。

国際MRA日本協会第8期会計報告

自：57年4月1日
至：58年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越	1,984,206	行動費	8,539,480
年会費	9,915,000	寄付	260,000
寄付	4,207,061	通信費	1,351,097
MRAハウス	6,756,463	印刷費	1,077,300
集会費	136,310	集會費	321,550
図書売上	151,500	図書購入	15,300
利子	30,542	家賃	3,228,000
雑収入	243,000	事務所費	3,075,232
国際会議	2,518,861	雑費	1,215,318
		厚生費	313,507
		国際会議	3,828,710
		次年度繰越	2,717,449
計	25,942,943	計	25,942,943

「世の中にはいい教えが沢山あるけれど、それを実行するかどうかが問題です。あなた方は私が知る限りでは、日常の生活の中でそれぞれが、『教え』を実際に生きようと努力しておられる。」

チベットのグライ・ラマ師は、スイスで開かれたMRA世界大会でこう言われたのです。そこにはキリスト教徒も、イスラム教徒も、ヒンズー教徒も、または特定の宗教を認識していない人も、沢山の国から集まっていました。

正にMRAならではの光景です。

「誰もが平和を望み、誰もが幸せになりたいと思っっている。しかし、世界の平和は人の心の平和が基になるのです。その為には一人一人が心の憎しみ、怒り、そねみ、欲ばり等々の悪を処理しなければならぬ。相手が悪いと言っていないで、自分から変わる事です。それには『心に響く声』に聴くことです。」

世界の平和、地域社会の福

祉、個人の幸せ、この三つとも互いに関わっていて、しかもその要（かなめ）は一人一人の個人であることを強調されました。

ということはい換えれば、あなたにも私にも責任があるということです。私一人ぐらいつでもいいと思ったり、人の見ていない所ですることはまあ、と思ったり、このぐらいいのことは誰でもすることだからと思ったり、口惜しいのは当然のこと、相手が悪いのだから、とか、言い訳はいくらでもあるでしょうが、そこを一つ、私の今日、今のあり方が、自分の、そして家族の幸せにつながるばかりではなく、地域社会の真の福祉、ひいては世界の平和にまで関ると思えば、一言一行もおろそかに出来ないのではないでしょう。

そこにMRAの生き方の鍵がひそんでいるのです。どの誰にも役割があるのです。無理屈ではなく、実行することです。

会員になってMRAを支えて下さい!

MRA日本協会は社団法人化を目指して 会員数増加のキャンペーンを行っています。

国際MRA日本協会は昭和五十年に設立されて以来、世界各国のMRAチームの人々と共に手を携えて、調和ある産業や社会、さらには平和な国際関係の実現を目指して活動を続けてまいりました。

毎年開催される国際MRA会議もその一環であり相互理解と信頼の絆は年々強まっております。他にも人材育成のための研修生の海外派遣、研究会、講演会の開催等々、日本人の「心の開国」を推し進めるために活動してまいりました。

さて当初任意団体で発足いたしました当協会も、MRA事業の一層の拡大をはかるべく、社団法人化を目指すことになりました。これを機に会員の増加をはかるキャンペーンを開始いたしました。また、より

た。この機会にぜひ当協会に御入会下さいませよう御願ひ申し上げます。

御入会下さった方には「ユース等の他に、各国での国際会議ならびに各種の会合の通知などその都度差し上げたいと存じます。

もし、御入会下されず場合は、入会申込書に必要事項を記入の上、お送り下さい。

尚入会申込書は、ご連絡下さればすぐにお送りいたします。

●会費

個人正会員（年額）

一〇 一、〇〇〇円

法人正会員（年額）

一〇 五〇、〇〇〇円

●払込先（郵便振替が便利です）

郵便振替口座：

東京8138293

銀行口座：富士銀行動坂支店

（普）236-861220

入会御願ひ

気軽にご入会となつて下さる様に、これまでの個人会費年額

一〇 五、〇〇〇円を

一〇 一、〇〇〇円に変更させて頂きまし



連載 ⑨

人と機構

イエンツ・ウィルヘルムセン

◇コミットメント(献身)へその一◇

本書は人を二つの任務にかりたてようとする目的をもっている。一つは人の生きる姿勢と価値観とを新たに变えるということ。もう一つは国の内外の政治と経済の重要課題の再構成に取り組み、かつ成果をあげるということである。

こうした任務に取り組むには、多くの努力と確固たるコミットメント(献身)が必要とされる。これは安易に為されることではない。自分の生活から余分なものを取り除き、この目的にそぐわないものは全て放棄されねばならない。つまり、どこに居を構え、どんな職業に就き、誰と付き合い、時間とお金をどう

使うか、といったことにかかわりをもつのである。

これにはまた研鑽も必要とされる。善意と私心のない動機をもつだけでは充分といえない。「腐った卵から美味しいオムレツを作ることはできないといわれるが、これはその通りである。

しかし私を含めて、良い卵からでも美味しいオムレツを作れない人間が多数いる。つまりいかにうまく料理するかという技量も必要だからである。社会的建設する場合も同じである。道義的法則の裏づけのない経済的法則は成り立たない。かといって今、道義的法則だけで実際の社会秩序を作ろうとしても、そ

の善意とはうらはらに混乱をもたらすだけである。健全な社会秩序を作る事は、一個人や一代をはるかに越えた、気の遠くなるほど困難な任務である。この場合の善意とはただ単に神に頼るだけではなく、人が全身全霊の努力を傾けることである。経済的法則と道義的法則とは調和できる社会秩序を建設することは、我々人間の果たすべき役割である。」とF・J・シードはいつている。

これは世代を越えた課題であって、歴史を学ぶことも不可欠である。ケンブリッジ大学のハーバード・バタワフィールド教授は次のように述べている。「十九世紀の歴史を専攻する人が、十九世紀が単に自然の過程で今日の世界に到達したと考えれば、現代の最も深い特徴を正しく評価することができない。通り一べんの思考におちいつてしまう。」

我々の時代の一つの特徴は、世界の相互依存の高まりである。ある地域で解決されない問題は、終局的には、全世界に影響を及ぼしてしまうことになる。自分の将来がオスロではなく、どこかほとんど自分の知らない

遠い国で決定されるかもしれないことをうけ入れることは、独立心の強いノルウェー人の視野の拡大を必要とする。しかし、科学、政治、経済の現実からみれば、我々は「実際一つの体系の一部であり、我々の生存は全体の体系の均衡と健全さにかかっている」(バーバラ・ウォード)「ただ一つの地球」という現実を受け入れ、それに応じた生き方をする事も、前にふれたコミットメント(献身)である。

それはしばしば犠牲を伴う。私がノルウェーで自分の将来の生き方をはっきり決めようとしていた時に、かつて戦争中には憎しみをもって戦ったドイツで、生活し働いてみないかという招きをうけた。それは一九四八年、まだドイツの都市は廃墟の中にあつて、絶望感と孤独感に満ちた人々でうずまっていた頃であつた。ドイツ抜きにして新しいヨーロッパの再建は図れないという考えに、私は強い挑戦を受けた。考えぬいたあげく私はドイツに向かい、五年間そこで過ごした。そこで私はかけがえないものを学び、又何か貢献することも出来た。そうし

た間に私はドイツを第二の故郷として愛し始めた。

コミットメント(献身)をもつて生きることは、世界的な事から個人的な事にまで及ぶ。私の人生の中でも、ある女性への関心が、他の考慮すべき全ての事を頭の中から追いやってしまった時期があつた。人を愛する事は人生の大きな贈物の一つではあるが、私は自分の天命と感じとつたことよりもそれを優先させてしまった。コミットメント(献身)を優先して考えた時、彼女が私にとって正しい相手ではないことに気がついた。私にとつて大変つらいことではあつたが、かえつて彼女自身が歩むべき道を見出す為の出発点となった。と同時に私にとつても、必ずしもいつも平穏とはいえないものの、今大変幸せな結婚生活を活分かち合っている妻との出逢いへの第一歩となつた。今私達は、二人の娘を授かり、オスロに住んでいる。

コミットメント(献身)とは、どんなに良い事、面白い事であってもこの目的にそぐわないものは捨てることである。又、時間とお金を無意味に使うことの

ない様に工夫する、ということでもある。自分がたずさわっていることを全て維持しようとす
るから、我々は益々忙しくなる。
「何故、突然命を失う事を恐れるの
に、命を小刻みに放棄するこ
とは構わないのか。」とある賢者
がいつている。

生きがいのある人生をおくる
ということ、革命のロボット
になるといっわけではない。「必
要ない」と思われるものの中に、
人間の良さがひそんでいる。「必
要なもの」からたまには離れる
ことも必要である。人を愛し、
人の悲しみを共に分かち合い、う
ち掛け話に耳を傾け、読書をし、
花を眺め、赤ん坊に乳を与え、
そして夢見る為に。こうして自
分にかえることが、新しい視野
や、自分がどんな人間なのかに
ついての新しい理解をもたらし
てくれる。

親がどうい生活をするか
によって、子供の育て方が決ま
る。ある親にとっては、子供に
問題を起こさせまいとすること
が最大の目的となってしまう。
親の恐れと野心は、かえって
子供達を束縛してしまうか反抗
させてしまう。私心を離れた目

的に生きている親は、その生き
方を通して子供達に方向を与え
得るし、不必要な保護や抑圧は
与えずに済む。

「私よりも父又は母、息子や
娘を愛する者は私にふさわしく
ない。」とキリストがいつている
信じていることに全てを捧げる

決意をした多くの人々には、違
った考えを持った親戚や友人達
と別れなければならぬ。いつら
い時がある。又、評判や仕事を犠
牲にすることもある。しかしな
がら、この様に無私を実践し責
任をもって生きる人がいない社
会は、悪に寛容になり停滞して
しまう。結局それが暴力への温
床となってしまう。

改訂版 (英語)
Man and
Structures
(人と機構)
発売中
定価 800円

MRA国際会議の御案内

国名	テーマ	日付	場所
中華民国	「アジアの新たな 精神攻勢」	昭和58年 11月12日～13日 (孫文生誕記念日)	台南
アメリカ	「新しいリーダーシップの概念 …一般市民の我々が、指導者 層をささえていくには？」	昭和58年 11月11日～13日	ワシントンD.C
オーストラリア	「新しい精神の 新しい展望」	昭和59年 1月8日～15日	シドニー
インド	「第4回 開発のための対話」 (共通なアイデンティティを求めて)	昭和59年 1月15日～20日	パンチガーニ (ボンベイから248km)



※なお、来年の5月18日～20日
は外国の方々をお迎えして、恒
例の小田原国際会議が、後には、
東京、大阪、神戸、埼玉、茨城、
栃木等での数々の行事が予定さ
れております。ふるって御参加
下さい。

※詳しくは、国際MRA日本協
会事務局(〒113東京都文京区千駄木
4-13 TEL・03-82
1-3737)へ。

今月の海外からのお客様

- ディック・ホール氏(アメリカ)……………セブンスティ・アドベンティスト・ワールドサービス
タイ駐在代表(牧師)——タイ国境にて難民救済のため活躍中
- ウォーレン・スケール氏(オーストラリア)…同副代表
- バラダラジャン氏(インド)……………IDLケミカル社会長
- ラルフ・ウエハウス博士(ドイツ)……………イバンジョリカル・アカデミー所属
(経済学者)
- ゴードン・ワイズ夫妻 (オーストラリア イギリス) ……英国MRA理事
〔10月1日・2日の関西MRA秋季大会にも参加されました。お2人の御活躍ぶりの報告は次号にて〕
- ジェリー・エイトキン氏(アメリカ)……………プロジェクト・アジア代表(牧師)
「インドシナ難民を助ける会」による、カンボジアに1000トンの衣類を送るキャンペーン参加のため来日
- ワタナ・ケオビモル博士(タイ)……………スワナプム財団理事長

事務局近況

● 三年間 I M A J ニュースの編集を担当して下さった寒江亮さんが八月に、海外青年協力隊の写真部門の試験に合格し一月のザンビア行きを目指して訓練生活に入られました。長い間御苦勞様でした！

● I M A J 編集は、私、高橋が引き継がせていただいております。何もかも初めてのため戸惑いがちですが、がんばっています。どうかよろしく御指導のほどを。

● 十月二十七日現在、会員数は一、六八四名に達しました。事務局一同も、嬉しい悲鳴をあげています。次の目標五千名を目指して、みなさまどうかよろしくお願ひ申し上げます。

MRA 関係出版物案内

「子らに残したい言葉」

—愛と幸せの発見—

山崎 房一

この世の中には二つのタイプの人間がいる。その一つは、大きな幸せの中に居ながら、その中の小さな不幸のみを見つめて、いつもプツプツ不幸に生きている人間と、もう一つは、大きな不幸の中に居ながら、その中の小さな幸せのみをみつめて、いつも幸せに生きている人間である。(本文13ページより)

PHD研究所 定価1,200円(千300)

当協会でもお取り次ぎいたします。

TEL 03(821)3737

難民に愛の衣類を



難民の難民キャンプの手前にも(タイ、カンボジア国境—インドシナ難民を助ける会撮影)

寒期…オムツも不足 助ける会 古着10万着贈る運動

「寒い季節は、難民にとって最も辛い時期です。特に冬は、衣類やオムツの不足が深刻です。助ける会では、古着の回収運動を通じて、難民に必要とされている物資を送りたいと考えています。ぜひ、ご協力をお願いします。」

- エイトキン氏のプロジェクト・アジアとインドシナ難民を助ける会によるキャンペーンを伝える読売新聞の記事